

THE RECORD

平成18年度事業報告

「携帯音楽を守りたいキャンペーン」スタート

社団法人 日本レコード協会



Contents

会長交替のご挨拶	2
平成18年度事業報告	3
音楽議員連盟第31回総会開催	7
音楽文化振興議員懇談会総会開催	7
CODA記者発表会開催	8
INFORMATION SQUARE	9
音楽CD需要拡大協力金導入の合意成立	11
Monthly Production Report	12
「携帯音楽を守りたいキャンペーン」スタート	13
Gold Album+...認定	14

会長交替のご挨拶



石坂敬一（新会長）

このたび、会員会社全社のご推挙により、佐藤前会長の後任として、日本レコード協会の会長に就任致しました。

社団法人日本レコード協会は、1942年の設立以来今年で創立65年を迎え、協会長も私で20代目となるそうです。このような長い歴史と伝統のある団体の会長に就任し、責任の重大さに身の引き締まる思いですが、皆さま方のご支援とご協力をいただき、この重責を果たしてまいれる所存でございます。

さて、日本のレコード産業は、音楽配信という新たなサービスの柱の急成長とともに、ようやく底入れの時期に差し掛かってきました。この音楽配信に、音楽DVD、そして、常に基盤を成す音楽CD（パッケージ）による相乗効果で、市場全体が活性化されつつあるといえるでしょう。

一方、政府を中心として、知財立国へ向けたさまざまな施策が展開される中、日本のレコード産業の果たすべき役割の重要性は年々高まっていますが、我々の役割は、健全な「音楽創造のサイクル」を維持しながら、日本の音楽文化を発展させ、多種多様な音楽をさまざまなキャリアによって音楽ファンに楽しんでいただくことです。

そのため、我々はレコード製作者を代表する団体として、またレコード製作者の権利を管理する団体として、知財立国の一翼を担いつつ、関係諸機関や国民の皆さまのご理解とご協力を得ながら、レコード産業の将来に向けた基盤強化と環境整備に、一層の努力を重ねてまいります。

佐藤前会長のもと策定された方針を踏襲し、全ての音楽ファンが将来にわたって豊かな音楽文化を享受できるよう、「レコード産業の復活」を目指し、諸施策を積極的に推進してまいれる所存です。皆さまにおかれましては一層のご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

最後に、課題山積の時期に会長を務められ、日本のレコード産業の代表として尽力された佐藤前会長に、衷心より感謝申し上げます、就任の挨拶とさせていただきます。



佐藤 修（前会長）

2004年9月にレコード協会会長に就任して以来、早いもので2年10カ月が経ちました。

この間、日本のレコード産業は、携帯電話向けをはじめとする音楽配信が新たなサービスの柱として成長し、音楽ソフト市場全体では、若干ながらプラスに転じ、ようやく一部に明るい兆しがみえてまいりました。

近年、音楽産業を取り巻く環境はかつてない変革期にあり、知財立国へ向けたさまざまな施策が展開される中、日本のレコード産業の果たすべき役割の重要性が高まってきました。私は、「外に打って出る協会」を掲げ、関係する文化庁、経済産業省をはじめとする国内外の諸機関、団体に積極的に働きかけ、連携を強化し、知財立国の時代におけるレコード産業の役割とレコード製作者の権利の確保について理解を得る努力を続けてまいりました。

この変革期の新しい枠組みに応じたレコード産業の主な施策として、レコード音源を使用した放送番組のネットワークにおける二次利用を促進するための集中管理事業を開始しました。一方、長年の懸案事項でありました歴史的・文化的資産であるSP原盤のアーカイブ事業の取り組みについても開始する事ができました。CDVJとの間においては、音楽CD需要拡大協力金の導入で合意を図ることができました。また、当協会が日本の団体として初めて中国政府から「権利認証機関」として承認され、この4月から日本音楽の認証業務を開始したことは、今後のアジア各国との音楽文化交流の拡大に向け、大きな礎になるものであります。いずれも、関係諸機関、団体のご理解、ご尽力なくして実現し得なかったものです。

しかしながら、これらの諸施策は、引き続き多大な努力と時間を必要とするものも多く、今後の重要課題として、石坂新会長に引き継いでいただく事となりました。

在任中に賜った皆さまからの数々のご指導、ご協力に対し、心より感謝申し上げますとともに、皆さまのご健勝と今後の業界の発展を祈りつつ、退任の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

事業活動

[1] レコードの普及に関すること

1. 音楽用CDの再販売価格維持制度の擁護

音楽用CDの再販売価格維持制度の意義について広く理解の促進を図るため、5月9日にマスコミ向けの記者懇談会を実施した。さらに、6月8日に知的財産戦略本部が公表した「知的財産推進計画2006」の中で「音楽用CDにおける再販売価格維持制度について検証する」と盛り込まれたことを受け、一般社会・消費者に影響力を持つ業界内外のオピニオンリーダー向けにCD再販制度の意義を伝えるパンフレットを制作し、当協会など音楽関係10団体名で3月に発行した。

2. 有料音楽配信の認定制度導入と月間チャートの公表

有料音楽配信のダウンロード数について認定制度を導入し、9月(8月分)から、認定作品および月間チャートを、公式インターネットサイト等を通じて一般に公表を始めた。なお、次年度は、会員社のデータ報告作業負担軽減のため入力システムの導入を予定している。

3. 日本ゴールドディスク大賞の見直し

日本ゴールドディスク大賞の抜本の見直しを進め、今年度(第21回)は、有料音楽配信市場の急速な立ち上がりを受けて、「着うた」部門を大賞に加えた。また、ライブイベント・テレビ放映を取りやめ、ホテルでのマスコミを対象とした授賞式を行い、前年以上の報道実績を挙げることができた。

4. アジア地域へのライセンス促進支援と海賊版対策

- ① 平成18年1月から12月までのライセンス数は、アジア地域における市況の悪化等の影響を受け、551作品(対前年86%)、延べ1,027タイトル(対前年95%)、ライセンス会員社数は昨年と同じ18社に留まった。
- ② 足掛け2年の取組みにより、当協会が中国政府からレコードの発行に関する権利認証機関として承認され、4月から事業を開始することとなった。
- ③ 日本音楽のアジア地域へのライセンスの拡大を図る

ため、経済産業省の「平成18年度アジア地域におけるコンテンツ正規版流通促進事業」の公募に参加、当協会の企画が採択されたことから、中国におけるレコードのライセンスプロセスに関する調査、実験を行った。

- ④ 5月に第2回中国国際音像総合配給展に日本ブースを出展するとともに、今回初めて日本貿易振興機構(JETRO)の協力を得てJAPAN NIGHT(ショーケースライブ)を実施した。
- ⑤ コンテンツ海外流通促進機構(CODA)の一員として、海賊版対策としての「[C]マーク」の導入に取り組んだ。

5. 音楽情報データの整備

"Music J-CIS"(Music Japan-Copyright Information Service)の構成団体として、音楽権利情報データベースを充実させユーザーへのサービスを拡大するため、レコード会社マスターのEDIデータから、平成18年発売の新譜約25万の楽曲情報を取り込み、17万楽曲のISRCと作品コード、実演家コードの関連付けを実施した。その結果、収録楽曲総件数は約289万件、ISRCは約93万種類、そのISRCで作品コードが特定できるのは約73万種類になった。

[2] レコードに関する調査研究および統計に関すること

1. 各種業界統計の作成と発表

新規商品統計の開始および会員社の統計項目のニーズ把握を行った。

2. 音楽に関する消費者実態調査の実施

マーケティング委員会を主幹委員会として、会員社のニーズの詳細を把握し実施した結果、従来以上の高い評価を得ることができた。

[3] 録音による芸術文化の保存に関すること

1. 歴史的音源のアーカイブ化の推進

- ① SP原盤実態調査ワーキングチームを設け、会員社5

社とNHKにおいてSP盤・金属原盤・台帳等の保存実態調査を行った。

- ② 当協会、NHKおよび音楽関連団体による「歴史的音盤アーカイブ推進協議会準備会」を開催し、来年度以降の本事業遂行に向けての体制作りを進めた。

2. 文化庁芸術祭への協力

「第61回文化庁芸術祭」のレコード部門申請窓口として58作品を参加申請し、参加が承認された30作品の中から芸術祭大賞1作品、優秀賞3作品が選出された。

3. 日本プロ音楽録音賞の共催

優秀な音楽録音作品を選定し、その録音エンジニアを顕彰する日本プロ音楽録音賞を(社)日本音楽スタジオ協会、日本ミキサー協会、(社)日本オーディオ協会、演奏家権利処理合同機構 Music People's Nestおよび当協会が共催し、平成18年12月6日虎ノ門パストラルにおいて第13回授賞式を開催した。

[4] 著作権・著作隣接権等に関すること

1. デジタル環境下におけるレコード製作者の権利確保

- ① 保護期間延長の検討を推進するため、著作権団体等16団体で「著作権問題を考える創作者団体協議会」を組織し、共同声明を発表する等著作権法改正のための運動を開始した。
- ② 私的録音問題について、著作権分科会私的録音録画小委員会において、「私的使用のための複製」の範囲縮小を求める意見提出を行った結果、「違法複製物の複製およびダウンロード」については、来年度の同小委員会において法改正の可否が検討される予定となった。
- ③ レコード演奏権について、法制委員会内のワーキングチームで条文案の作成等の具体的な検討に着手した。

2. 違法ファイル交換対策の強化

- ① 違法ファイル交換対策として、8月から新インスタント

メッセージ送付システムを導入し、メッセージを注意から警告に切り換え発信中である(3月末で累計57千通を送付済)。

- ② 9月に違法ファイル交換ユーザー19名の発信者情報開示請求訴訟について原告レコード会社14社勝訴の判決が下され、現在当該ユーザーとの間で損害賠償請求等の協議中である(多数の原告による開示請求が認められたのは初めてのケースである)。
- ③ モバイル向け違法音源配信について、携帯キャリアと対策について協議を開始した他、法的措置、技術的対策、広報対応の検討を開始した。また、違法配信の利用を助長する雑誌への対応や利用実態調査等を行った。
- ④ ネット上の違法問題の現状や業界の取り組みに関する社会的認知、理解をより深めるために各種調査に関する報告会、記者会見等、積極的に広報活動を展開した。

- 1) 不正コピー、不正アップロード防止のための啓発キャンペーンの実施

音楽関係団体と共に、著作権意識の啓発のための「Respect Our Music キャンペーン」を10月から3月にかけて展開した。今年度はインターネットサイトに加えて携帯サイト上にも特設ページを設置し、アーティストの動画メッセージを配信するとともに、全国レコード店頭でのポスター掲出、新聞・雑誌、インターネット・携帯サイト、地下鉄や駅等への広告出稿等を行った。

- 2) 音楽創造のサイクルの大切さを訴える「ハッピーミュージック サイクル」のリーフレット(2訂版)を、関係団体も含めたイベント、啓発活動、音楽関連の講座などを通じ若年層を中心とした音楽ユーザーに広く配布した。
- 3) 当協会等音楽関係6団体は、(社)私的録音補償金管理協会の助成事業として、(社)日本インターネットプロバイダー協会の協力を得て著作権啓発キャンペーンを実施した。交通広告などからのウェブ、携帯電話のキャンペーンサイトへの誘引は、大きな訴求効果を挙げた。

4) 著作権教育の推進

平成16年度より早稲田大学に寄付講座「コンテンツビジネスと著作権」を設け、3年目となる今年度も著作権の基礎知識、音楽関連産業の実務と著作権、日本の知的財産戦略とコンテンツビジネスおよび関連産業の実務と著作権との関係等の講義を行い、大学、教員および学生から高い評価を得た。

音楽創造のサイクルの重要性とレコード産業の仕事の判りやすく解説したパンフレットを学校授業等で小中学生に配布した。

[5] レコードに関する出版物の刊行等

1. 出版物の刊行

月刊機関誌「THE RECORD」を発行し、会員社、関係団体、官公庁、マスメディア、業界関係者などに配布した。同機関誌では、日本のレコード産業の現状や課題、協会活動、業界関連の調査・統計、世界のレコード産業の動き、その他音楽関係のトピックを取り上げ、読者の関心を高めた。

2. ホームページの運営

当協会の、公式インターネットサイトの今年度の更新・追加ページ数は約770ページにのぼった。また、携帯電話のネット利用の普及にあわせて、著作権啓発関係情報掲載を中心とした当協会の公式携帯サイト「Respect Our Musicモバイル」を開設した。

[6] レコード製作者に係る商業用レコードの二次使用料に関する権利行使の受任、総額の取り決めならびに徴収および分配

1. 二次使用料等の徴収および分配

二次使用料委員会を中心に、放送事業者等と使用料の協議を行った結果、徴収額は48億2,400万円(前年度比5.1%増)、権利者分配金額は43億5,300万円(前年度比5.4%増)となった。

2. 二次使用料の放送実績分配への移行

フィンガープリント技術を応用した全曲報告システムの実用化を目指し、音楽関係団体、放送事業者および技術会社と9月と11月に実証実験を行い、放送実績分配移行に向けた課題を整理した。

3. 著作権隣接権集中管理事業の拡大

① 放送番組のネットワークでの二次利用について、10月8日から集中管理事業を開始し、5事業者7番組(内、テレビは1事業者1番組)の許諾を行った。

② 「IPマルチキャスト放送」の著作権法上の位置づけの検討に際し、文化審議会著作権分科会等に積極的にレコード製作者の権利を確保するための意見を表明し、権利切下げの動きを必要最小限に抑えとともに、有線放送による放送の同時再送信についてレコード製作者に報酬請求権を付与する著作権法の改正が実現した。

[7] レコード製作者に係る商業用レコードの公衆への貸与に係る報酬等に関する権利行使の受任、金額の取り決めならびに徴収および分配

日本コンパクトディスク・ビデオレンタル商業組合と長期にわたり使用料交渉を進めてきたが、平成19年4月より、CDレンタル店がレコード会社に対し「音楽CD需要拡大協力金」を支払うことで妥結した。

[8] 私的録音録画補償金に関する権利行使団体の構成員としての業務ならびにレコード製作者に係る当該補償金の分配

1. 私的録音補償金

(社)私的録音補償金管理協会(sarah)から分配を受けた私的録音補償金額は、3億6,500万円となり、前年度に比べ24.3%の大幅な減少となった。なお、対象機器および記録媒体の市場価格の下落や私的録音に用いる機器がMD等の補償金対象機器から対象とされていない携帯オーディオ機器に移行していること等から、補償金額の下落傾向は今後も続くものと予想される。

2. 私的録画補償金

(社)私的録画補償金管理協会(SARVH)から分配を受けた私的録画補償金額は4,800万円となり、前年度に比べ9.1%の増加となった。

[9]その他

1. 海外の団体等との連携

IFPI(国際レコード産業連盟)の中央理事会が、5月にニューヨーク、11月にマドリッドで開催され、いずれも協会長が出席した。また、広報、演奏権管理、海賊版対策、調査統計等に関するIFPIの会議が開催され、担当部門長らが参加した。

2. レコード倫理審査会の開催

月次会議にて会員社から発売される全邦楽作品9,374

点について審査を行った。また、レコード倫理綱領、レコード制作基準およびレコード倫理審査会規程の改訂を行った。

3. 業界規格(RIS)の制定と改正

平成18年度に制定又は改正したRISおよび運用基準は次のとおりである。

- 「RIS505別冊 ISRC運用基準2007年度版」
(平成19年2月9日発行)

4. “ISRC”(International Standard Recording Code)

管理機関としての活動

新規申請者数が急増した事に伴うISRC受付センターの業務効率改善のため、ISRC ホームページの大幅な改修を行うとともに、同ホームページからの申請受付を可能とした。

運営体制

平成18年度末における当協会の運営体制は次の通りである。



以上

音楽議員連盟第31回総会開催

6月14日、東京都千代田区の衆議院第一議員会館で、超党派の国会議員による音楽議員連盟(柳澤伯夫会長・自民)の第31回総会が開催されました。

この音楽議員連盟は、音楽、演劇、映画等の我が国の芸術・文化振興に向けた諸課題に取り組むため、1977年11月に結成以来、1984年の「貸レコード暫定措置法」、2001年の「文化芸術振興基本法」の議員立法での成立など、文化芸術立国に向けて、多くの成果を積み重ね、今年で発足30年目を迎えます。

総会には、当協会佐藤会長など関係12団体の代表者が出席し、平成20年度に向けての諸課題等について意見交換が行われました。当協会佐藤会長は、歴史的音盤のアーカイブ事業への本格支援の必要性を訴えました。



総会の様子

出席団体からの発言項目は下記の通りです。

● 出席団体からの発言(発表順)

1. 文化芸術活動の支援について.....(社)芸能実演家団体協議会 崎元 譲常任理事
2. 歴史的音盤のアーカイブ化の支援について.....(社)日本レコード協会 佐藤 修会長
3. 著作権の保護期間の延長について.....(社)日本音楽著作権協会 船村 徹会長
4. 私的録音補償金の見直しについて.....(社)音楽出版社協会 朝妻 一郎会長

また、今後、音楽議員連盟設立30周年を迎える2007年度は文化芸術推進フォーラムと共催し、文化芸術フォーラムや記念式典、さまざまな文化政策提言セミナーの開催も予定しています。

■ 総会出席議員(敬称略・順不同)

斉藤斗志二(自民)、鈴木恒夫(自民)、横光克彦(民主)、枝野幸男(民主)、島村宜伸(自民)

音楽文化振興議員懇談会総会開催



総会の様子

5月22日、東京都千代田区の自由民主党本部で、自民党有志議員による音楽文化振興議員懇談会(島村宜伸会長)の総会が開催されました。この懇談会は、音楽文化の振興を目的に1997年6月に設立されたものです。

総会には、音楽関係団体の代表者も多数出席し、当面の音楽産業の諸問題に関する意見交換が行われました。

当協会からは佐藤会長が、歴史的音盤のアーカイブ事業について、当該事業の重要性と緊急性を述べ、国の理解と支援を訴え、参加された先生方からは、前向きで力強いご意見をいただきました。

■ 総会出席議員(敬称略・順不同)

会長 島村宜伸/副会長 鈴木恒夫・村上誠一郎/幹事長 小野晋也/事務局長 今村雅弘/幹事 河村建夫/遠藤利明・近藤基彦・秋元 司

音楽文化振興議員懇談会 設立10周年記念懇親会

6月18日、東京都港区のANAインターコンチネンタルホテル東京で、音楽文化振興議員懇談会の設立10周年を記念した懇親会が盛大に開催され、国会からは、甘利明経済産業大臣をはじめ、21名の先生方が出席されました。

島村宜伸会長の開会挨拶に始まり、小野晋也幹事長による10年間の懇談会の活動報告が行われました。その後、音楽関係団体を代表して、当協会佐藤会長、(社)日本作曲家協会遠藤実会長、(社)日本音楽著作権協会都倉俊一理事から祝辞が述べられました。懇親会の後半は、「歌いつごう日本の歌」と題して、ボニージャックスさんと崎元譲さん出演によるミニコンサートが行われました。最後は出席者全員で合唱するなど、会の設立10周年にふさわしい華やかで活気のある会となりました。



懇親会の様子

C O D A 記 者 発 表 会 開 催

6月13日、東京都千代田区のアルカディア市ヶ谷において、コンテンツ海外流通促進機構(CODA)が、これまでの活動実績と今後の活動計画に関する記者発表会を実施しました。

ここでは、この記者発表で公表されたCODAの活動実績について紹介します。



記者会見の様子

海賊版の押収数374万枚に

～CODA/CJマーク委員会での摘発実績～

コンテンツ海外流通促進機構(CODA)/CJマーク委員会では、活動を開始した2005年1月から2007年4月までの間、香港、中国、台湾において、現地政府取締機関と共同で計3,587件の摘発活動を実施し、映画、アニメ、音楽、ゲームなどのDVD、VCD、CD約374万枚を押収、1,242名を逮捕(うち68名に対し香港で有罪確定)という成果を挙げました。

また同期間に、中国、香港、台湾の主要都市13カ所で、現地取締機関の担当者に対し商品の特徴や海賊版の見分け方について解説するセミナーを計24回開催し、合計で2,000名以上の取締機関担当者が、日本コンテンツの海賊版および識別方法への認識を高めました。

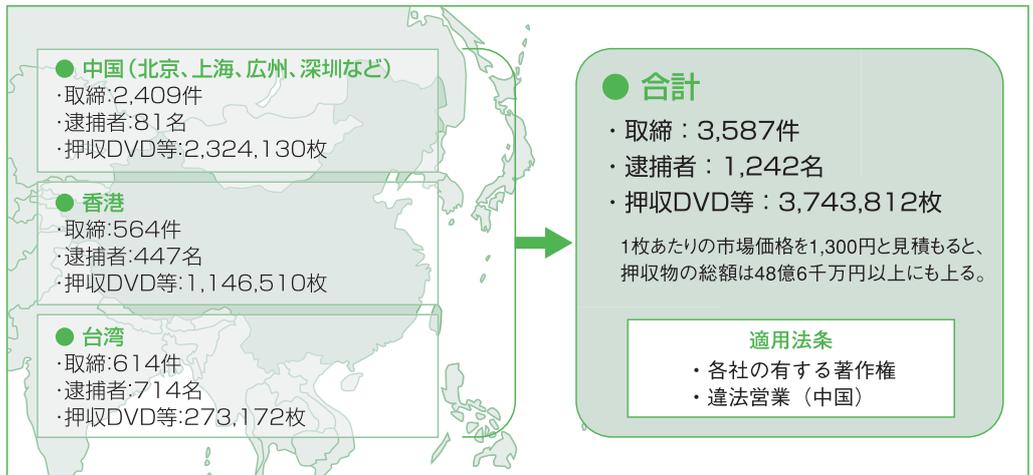
最近の事例を挙げると、香港の裁判所は2007年5月28日、日本コンテンツ海賊版の製造業者3名に対し、最高で禁固73カ月(6年1カ月)の有罪判決を言い渡しました。

この事件は2006年1月、香港税関が香港・九龍(Kowloon)地区にあった海賊版製造施設に対する摘発を実施し、複製機器等144台、日本コンテンツを含む海賊版ディスク75,000枚余りを押収、11名を逮捕したものです。

同判決は、香港における著作権侵害事件としては過去2番目、CJマーク事業関連としては最も重い判決です。なお、残り8名についてもすでに16～22カ月の有罪判決が確定しています。

また中国本土においては、2007年3月までに、サイバーカフェ店内のLANサーバに日本コンテンツ等の違法ファイルを蔵置し、利用者に閲覧させていたサイバーカフェ計15店に対する摘発を現地取締機関と共同で実施しました。

CODAは2006年6月、中長期ビジョンを公表し、2010年、2015年までの活動目標を掲げました。今期はこの目標達成の第1ステップとして、①法制度委員会によるロビー活動強化、②CJマーク委員会による調査活動の強化、③CODAの組織基盤強化に取り組んでいきます。



コンテンツ海外流通促進機構(CODA)概要

コンテンツ海外流通促進機構(CODA)は、著作権関係団体やコンテンツ産業等が積極的に海外での事業展開を図るとともに、海外における海賊版対策を行うための民間組織として、文化庁と経済産業省が関係者に呼びかけ、平成14年8月2日に設立しました。

主な活動としては、各種海賊版対策に関する広報や会員間の情報交換のほか、国内外のコンテンツ関連団体・企業、取締機関、弁護士等の専門家を講師に招いてセミナーを開催しています。またCJマークを利用した権利行使、海外の著作権関連法制度の検証などを実施しています。さらに、海外の知的財産侵害問題の解決を図るため、日本の産業界が業種を横断的に集まって組織されている国際知的財産保護フォーラム(IIPPF)の活動にも参加し、中国政府(中国国家版權局等)に意見の申し立てを行っています。



CJマーク (コンテンツ海外流通マーク)

海賊版対策の一手段として日本コンテンツに付するマーク。
正規品流通地域(アジア諸国等)でCJマークの商標登録出願を行い、その商標権により、海賊版を「商標権侵害」として摘発する。海賊版排除により、日本のコンテンツ・著作物流通促進のインフラ整備を行うことを目的とする。

日本のコンテンツの情報発信ポータルサイト 「ジャパン・コンテンツ・ショーケース」を公開

6月14日、日本のエンターテインメント・コンテンツ業界の企業・団体で構成するコンテンツ・ポータルサイト運営協議会は、日本のコンテンツ情報を国内外に発信するためのポータルサイト「ジャパン・コンテンツ・ショーケース」を公開しました。

本協議会は、ジャパンコンテンツ・ブランドの発信やコンテンツの利活用の促進を通じて、我が国経済社会の発展に寄与すべく昨年8月2日に設立されました。会長は、佐藤修ポニーキャニオン代表取締役会長(当協会会長)です。

このポータルサイトは、日本経団連のエンターテインメント・コンテンツ産業部会を中心に検討が進められていたもので、日本のさまざまなエンターテインメント・コンテンツに関する情報を集積し、国内外に向けて情報発信することにより、企業間のBtoBによるコンテンツ二次利用の促進を図ることを第一の目的としています。また、国内外の一般消費者へも情報発信を行うことにより、ジャパン・コンテンツのブランドイメージの強化も目指しています。

詳しくは、下記URLをご参照下さい。

<http://www.japancontent.jp/>



佐藤会長、JAMEマネージャー養成講座で講義

6月13日、東京都渋谷区の音事協会館において、(社)日本音楽事業者協会主催「JAMEマネージャー養成講座」で、当協会佐藤会長が講義を行いました。この講座は、アーティスト・マネジメント業界を担う若手人材の育成を目的とし



講義の様子

て6月6日から開講されているもので、当協会も本講座を後援しています。

今回、講座の3時限目の講師として登場した佐藤会長は、「レコードビジネスの現状と展望」をテーマに、約100名の受講生を前に、音楽マーケットの現状やこれを取り巻く環境の変化、直面するさまざまな課題について、さまざまなデータを用いて、詳細に解説を行いました。

石坂副会長、早稲田大学寄付講座で講義

6月14日、東京都新宿区の早稲田大学において、当協会寄付講座「コンテンツビジネスと著作権」で、当協会石坂副会長(当時)が「洋楽を中心とした国際ライセンスビジネス」をテーマに講義を行いました。受講生たちは普段触れる機会が少ない経験豊かな国際ライセンスの話に熱心に耳を傾けていました。講義終了後は、学習意欲の高さを感じられる質問や感想が多数寄せられました。

JAPAN国際コンテンツフェスティバル記者発表会

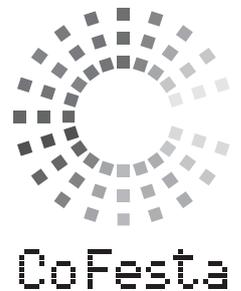
6月12日、東京都港区の国立新美術館にて、今秋より開催されるJAPAN国際コンテンツフェスティバル(コ・フェスタ)の記者発表が行われました。

コ・フェスタとは、東京を中心として映画、アニメ、ゲーム、マンガ(キャラクター含む)、放送、音楽等のイ

イベントを一定期間に開催する世界最大規模の統合コンテンツフェスティバルです。これまで各業界で開催されていた国際的な展示会をひとつにまとめ、日本の魅力、才能、商品をより世界に強くアピールし、発信していくことを目的としています。

記者会見では、シンボルマークのデザインを手がけた佐藤可士和氏によるプレゼンテーション、重延副委員長による公式テーマ曲の制作概要、各イベント代表者によるイベント紹介が行われました。

このうち、音楽分野では、(財)音楽産業文化振興財団の関正明専務理事より、今年で第4回目となる「東京アジア・ミュージックマーケット(TAM)」の概況が発表されました。今年のTAMは、10月15日から19日の5日間、恵比寿ガーデンプレイスにて開催されます。アジア各国の音楽産業に



係る関係者が一堂に会し、「ショウケースライブ」を通じての商談の促進やビジネスセミナー、フォーラムを開催し、最終日には海外のアーティストによるライブを予定しています。

また同じ時期に、IFPI（国際レコード産業連盟）のアジア太平洋理事会も東京で開催されます。TAMの過去3年の実績を生かし、「コ・フェスタ」では音楽業界の存在感を発揮していく予定です。



記者会見の様子

インターネット知的財産権侵害品流通防止協議会 公式サイト開設

6月19日、インターネット知的財産権侵害品流通防止協議会（CIPP）は、公式サイトを開設しました。

CIPPは、インターネット上での知的財産権侵害品の流通防止を目的として、権利者（団体）やインターネット事業者が2005年12月に設立した民間の組織で、当協会を含む権利者・権利団体やインターネット事業者・オークション事業者が参加しています。

今後、CIPPでは、インターネットオークションに出品される海賊版・模倣品に関して、オークション事業者が出品情報の削除を行う際の基準や、権利者が行うべき作業などについて定める「知的財産権侵害品流通防止ガイドライン」を作成し、また新規参加メンバーを募集し、知的財産権侵害の流通防止に注力していく予定です。

詳しくは、下記URLをご参照下さい。

<http://www.cipp.jp/>

役員人事のお知らせ

■新任

会長 石坂敬一（7月1日付）

[ユニバーサル ミュージック株式会社代表取締役会長兼CEO]

副会長 稲垣博司（7月1日付）

[エイベックス・マーケティング株式会社代表取締役会長]

副会長 小池武久（7月1日付）

[キングレコード株式会社代表取締役社長]

副会長 廣瀬禎彦（7月1日付）

[コロムビアミュージックエンタテインメント株式会社
代表執行役社長兼CEO]

副会長 北川直樹（7月1日付）

[株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント
代表取締役 コーポレート・エグゼクティブCEO]

■退任

会長 佐藤 修（6月30日付）

[株式会社ポニーキャニオン代表取締役会長]

会員社のお知らせ

■新入会（7月1日付）

社名：株式会社ハッツアンリミテッド（準会員）

代表：代表取締役 大谷勝己

住所：〒106-0032 東京都港区南麻布3-3-1

麻布セントラルポイント2階

TEL：03-3475-0678 FAX：03-3479-1181

■社名変更（6月30日付）

新社名：株式会社EMIミュージック・ジャパン（正会員）

[EMI Music Japan Inc.]

(旧社名：東芝EMI株式会社)

TEL：03-5512-1700 FAX：03-5512-1731

● 2007年6月会議メモ

- 6・4 私的録音委員会
- 6・5 広報委員会
- 6・6 マーケティング委員会
- 6・11 レコード倫理審査会
- 6・12 法制委員会
- 6・15 情報・技術委員会
- 6・21 私的録音委員会
- 6・22 執行委員会
- 6・27 二次使用料委員会
- 6・29 理事会

6月1日付で新入会しましたバウンディ(株)の清水英明代表取締役社長より挨拶文が寄せられました。

入会のご挨拶

跳ねる、躍動するというバウンド(bound)と、旧社名の略称スリーディの語感を残した造語が、私達の社名「バウンディ」(boundee)です。

バウンディ株式会社は、1999年9月にパッケージ受託販売会社として設立されたスリーディーシステム株式会社を母体としておりますが、事業環境の変化が著しい音楽業界の中で、効率的で迅速な業務展開を推進すべく、2006年に業容拡大を行いました。これに伴い、昨年9月に、本店を恵比寿から渋谷に移転するとともに、商号を「スリーディーシステム株式会社」か

ら「バウンディ株式会社」に改めました。

私たちは、“感動”をクリエイトする音楽の創り手に、音楽活動の環境とサービスを提供し、人々の心を豊かに、そして文化の発展と普及に貢献していくことを経営理念に掲げており、少しでも多くの人に、良質で多様な音楽をお届けしていきたいと思っております。

同時に、自らも心豊かに躍動感を持って、新たな事にも積極果敢に取り組み、大きく跳ねて行く存在となることを目指して頑張っていきたいと思っております。



バウンディ株式会社

代表取締役社長 清水英明
<http://www.boundee.jp/>

音楽CD需要拡大協力金導入の合意成立

当協会は、日本コンパクトディスク・ビデオレンタル商業組合(CDVJ)に対し、レコード製作者として、レンタル事業からの適正な負担金支払いを要求し、足掛け2年にわたり交渉を行ってきました。そして交渉の最終局面でCDVJから、『「音楽CD需要拡大協力金」のお支払いについて』の申入書が提出され、それを基にさらに交渉を重ねた結果、支払い方法等についての詳細が合意されました。その合意を得て、当協会はCDVJとともに6月4日、所轄官庁である文化庁著作権課に報告しました。

CDVJからの申し入れの趣旨は、下記の通りです。

- ①音楽パッケージ産業の盛衰はCDレンタル店の盛衰に直結しており、音楽パッケージ産業活性化のためにCDとしても対応を迫られている。
- ②一昨年来、CDVJはレコードメーカーとの間で、市場環境に関する意見交換、およびレンタル事業者が行う措置について協議を続けてきたが、音楽パッケージ産業活性化のために、レコードメーカーが行う宣伝・販促活動の一翼を



調印式の模様
世良CDVJ理事長(左)稲垣レンタルレコード委員会委員長(右)

担うことが相応と判断し、定価2000円以上の邦楽アルバムを対象に「音楽CD需要拡大協力金」を提供することを決議した。

③については4月1日より、現在代行店を通じてレコードメーカーに支払っている使用料システムを利用し、レコード協会を通じて本協力金を加盟メーカーにお支払したい。

需拡大協力金は、平成19年度は邦楽2000円以上のアルバム1枚158円、平成20年度からは同316円で、4000円以上の邦楽アルバムについては価格帯ごとに増加されます。

当協会は、CDVJからの申入書、および本需拡大協力金の趣旨を尊重し、徴収した金額をできるだけスムーズに分配することにしました。そのため、徴収を業務委託する貸レコード卸代行業の皆さまのご協力を得て、分配スキームの見直しにも着手しました。

また、話し合いの過程でCDVJサイドから要望のあった、「業界復活の大きな障害となっている違法コピーの実態調査」についても当協会として協力していくこととしました。

Monthly Production Report

2007年5月度レコード生産実績

5月度の音楽ソフト(オーディオレコード・音楽ビデオの合計)生産実績は、数量で前年同月比89%の2,389万枚・巻、金額で同90%の277億円となりました。

このうち、オーディオレコードは、数量で前年同月比88%の2,084万枚・巻、金額で同88%の238億円となりました。また、音楽ビデオは、数量で前年同月比97%の305万枚・巻、金額で同100%の39億円となりました。

● オーディオレコード

(数量:千枚・巻/金額:百万円)

			5月実績						2007年1月～2007年5月累計					
			数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
シ	8cmCD	邦	35	0	107%	14	0	95%	119	0	22%	55	0	64%
		洋	6	0	79%	4	0	125%	113	0	378%	20	0	169%
		計	42	0	102%	18	0	100%	231	0	41%	76	0	77%
ン	12cmCD	邦	5,062	24	86%	3,787	16	82%	25,781	24	93%	19,151	15	92%
		洋	50	0	61%	35	0	55%	236	0	133%	138	0	111%
		計	5,112	25	86%	3,823	16	82%	26,016	24	93%	19,289	15	92%
ル	小計	邦	5,097	24	86%	3,802	16	82%	25,900	24	92%	19,206	15	92%
		洋	57	0	62%	39	0	58%	348	0	169%	159	0	116%
		計	5,154	25	86%	3,841	16	82%	26,248	24	92%	19,365	15	92%
12cmCD アルバム	邦	9,444	45	91%	12,014	50	88%	53,618	49	98%	77,154	59	97%	
	洋	5,715	27	85%	7,497	31	94%	26,895	25	83%	31,953	24	90%	
	計	15,159	73	89%	19,511	82	90%	80,513	73	92%	109,107	83	95%	
CD 合計	邦	14,541	70	89%	15,816	66	86%	79,518	73	96%	96,360	74	96%	
	洋	5,772	28	85%	7,536	32	94%	27,243	25	83%	32,112	25	90%	
	計	20,313	97	88%	23,351	98	88%	106,761	97	92%	128,472	98	94%	
アナログ ディスク	邦	7	0	88%	9	0	84%	66	0	100%	104	0	125%	
	洋	4	0	37%	5	0	17%	29	0	80%	48	0	91%	
	計	11	0	57%	13	0	36%	95	0	93%	152	0	112%	
カセット テープ	邦	487	2	82%	391	2	83%	2,557	2	86%	1,979	2	82%	
	洋	0	0	0%	0	0	0%	1	0	32%	1	0	33%	
	計	487	2	81%	391	2	82%	2,558	2	86%	1,980	2	82%	
その他	邦	17	0	106%	31	0	158%	162	0	248%	314	0	286%	
	洋	10	0	88%	19	0	85%	69	0	117%	125	0	113%	
	計	27	0	98%	50	0	120%	232	0	185%	439	0	199%	
合計	邦	15,052	72	89%	16,246	68	86%	82,302	75	95%	98,757	75	95%	
	洋	5,786	28	85%	7,559	32	94%	27,343	25	83%	32,285	25	90%	
	計	20,838	100	88%	23,805	100	88%	109,646	100	92%	131,043	100	94%	

● 音楽ビデオ

			5月実績						2007年1月～2007年5月累計					
			数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
DVD	邦	2,716	89	106%	3,359	86	113%	20,491	92	117%	19,216	88	103%	
	洋	304	10	60%	516	13	61%	1,586	7	82%	2,420	11	79%	
	計	3,020	99	98%	3,875	99	102%	22,077	99	114%	21,636	99	100%	
テープ・LDその他		30	1	32%	29	1	29%	216	1	63%	251	1	50%	
合計	邦	2,721	89	103%	3,380	87	110%	20,613	92	116%	19,438	89	102%	
	洋	329	11	65%	524	13	62%	1,680	8	87%	2,449	11	80%	
	計	3,050	100	97%	3,903	100	100%	22,293	100	113%	21,887	100	98%	

● 音楽ソフト(オーディオ/音楽ビデオ合計)

			5月実績						2007年1月～2007年5月累計					
			数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
オーディオ			20,838	87	88%	23,805	86	88%	109,646	83	92%	131,043	86	94%
音楽ビデオ			3,050	13	97%	3,903	14	100%	22,293	17	113%	21,887	14	98%
合計			23,888	100	89%	27,709	100	90%	131,938	100	95%	152,930	100	95%

● ビデオ(含音楽ビデオ)

			5月実績						2007年1月～2007年5月累計					
			数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
DVD			4,933	96	89%	8,885	98	89%	39,875	99	92%	67,692	99	98%
テープ・LDその他			225	4	131%	154	2	69%	522	1	69%	639	1	40%
合計			5,158	100	90%	9,039	100	89%	40,397	100	92%	68,331	100	96%

● オーディオ/ビデオ合計

			5月実績						2007年1月～2007年5月累計					
			数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
オーディオ			20,838	80	88%	23,805	72	88%	109,646	73	92%	131,043	66	94%
ビデオ			5,158	20	90%	9,039	28	89%	40,397	27	92%	68,331	34	96%
合計			25,996	100	88%	32,844	100	88%	150,042	100	92%	199,374	100	95%

備考 1. 上記実績は、会員会社「45社」の集計である。当会員社が受託した非会員社からの販売委託分を含む。
2. 単位未満四捨五入により、内訳と合計が一致しない場合がある。
※オーディオレコードのその他はSACD、DVDオーディオ、DVDミュージック、MDの合計。

「携帯音楽を守りたいキャンペーン」スタート

当協会は、最近急増する違法な携帯電話向け音楽配信対策のため、当協会会員社およびアーティストの協力を得て、「携帯音楽を守りたいキャンペーン」を開始しました。

携帯電話向けの音楽配信市場は、2006年で約482億円の規模に成長し、音楽産業の新たな柱のひとつとなりつつありますが、一方で違法行為も急増しています。当協会の調査によると権利者に無断で携帯電話向けにアップロードされた音楽ファイルが年間で2億8,700万ファイルもダウンロードされていると推定され、音楽配信市場の健全な発展の大きな阻害要因となっています。

このキャンペーンは、「携帯音楽を守りたい～違法な音楽ファイルの利用はやめましょう」をキャッチコピーとして、多くのアーティストとともに、携帯電話のメインユーザー層である若年層に向けて、音楽の大切さと音楽創造のサイクルを守る大切さを訴えていくためのものです。

また、キャンペーンの一環として、特設携帯サイト(<http://www.mamo-on.jp>)を開設し、音楽ファンにあてて、多数のアーティストからのメッセージを発信していきます。初回は、伊藤由奈さん、w-inds.さん、倅田來未さん、DJ OZMAさん、FUNKY MONKEY BABYSさん(50音順)の5組のアーティストからのメッセージを発信していますが、今後、続々と新たなアーティストが登場する予定です。

● 初回登場アーティスト (敬称略)



伊藤由奈



w-inds.



倅田來未



DJ OZMA



FUNKY MONKEY BABYS



<http://www.mamo-on.jp>

音楽ソフト

邦楽

アルバム

● **ダブル・プラチナ**

B-SIDE THE BEST of mihimaru GT	MR.CHILDREN mihimaru GT	2007.05.10 2007.05.02	TF UM
-----------------------------------	----------------------------	--------------------------	----------

● **プラチナ**

Denim	竹内まりや	2007.05.23	WJ
-------	-------	------------	----

● **ゴールド**

R35 Sweet J-Ballads ベストやねん Come on Stand up! EPopMAKING ~Popとの遭遇~ THE WORLD	ヴァリアス・アーティストズ ウルフルズ 長瀬剛 BEAT CRUSADERS BENNIE K	2007.04.25 2007.02.21 2007.05.16 2007.05.30 2007.05.23	WJ TO FL DF FL
---	---	--	----------------------------

シングル

● **ダブル・プラチナ**

桜	コブクロ	2005.11.02	WJ
---	------	------------	----

● **プラチナ**

喜びの歌 明日晴れるかな	KAT-TUN 桑田佳祐	2007.06.06 2007.05.16	JA V
-----------------	-----------------	--------------------------	---------

● **ゴールド**

シアワセ しおり Dream Lover SUMMER TIME LOVE Cry Baby キッス ~帰り道のラブソング~ あばよ/朝顔日記 きよしのソーラン節/希望という名の最終列車 ひとり薩摩路 SEVENTH HEAVEN 蛍/RUN	aiko Aqua Timez Infinity 16 welcomez 湘南の風, MINMI, MOOMIN EXILE SEAMO テゴマス 水川きよし 水川きよし 水森かおり L'Arc~en~Ciel レミオロメン	2007.05.30 2007.05.09 2007.04.18 2007.05.16 2007.04.18 2007.05.16 2007.05.09 2007.05.09 2007.04.04 2007.05.30 2007.05.09	PC ES UM AM BMG JE C C TJC KS V
---	--	--	---

ビデオ

● **ゴールド**

Space of Hip-Pop -namie amuro tour 2005- ARASHI AROUND ASIA KOICHI DOMOTO CONCERT TOUR 2006 mirror The Music Mirrors My Feeling	安室奈美恵 嵐 堂本光一	2006.03.15 2007.05.23 2007.05.16	AM JA JE
---	--------------------	--	----------------

洋楽

アルバム

● **2ミリオン**

ザ・ベリーのベスト(ALL THE WAY... A Decade Of Song)	Celine Dion	1999.11.13	SI
--	-------------	------------	----

● **トリプル・プラチナ**

ベスト・ダム・シング	アヴリル・ラヴィーン	2007.04.18	BMG
------------	------------	------------	-----

● **プラチナ**

ピコーズ・オブ・ユー ピリー・ザ・ヒッツ(THE ULTIMATE COLLECTION) ミニッツ・トゥ・ミッドナイト	Ne-Yo Billy Joel リンキン・パーク	2007.04.25 2006.07.19 2007.05.16	UM SI WJ
--	---------------------------------	--	----------------

● **ゴールド**

フェイスヴァリット・ワースト・ナイトメア ダンスホール・ラヴァーズ・ベスト イット・ウォント・ビー・スーン・ビフォー・ロング	アーケティック・モンキーズ VARIOUS マルーン5	2007.04.18 2007.04.18 2007.05.16	HSE TO UM
--	-----------------------------------	--	-----------------

※日付は発売日

有料音楽配信(「着うた(R)」他)

「着うた(R)」

● **2ミリオン**

蕾(つぼみ)	コブクロ	2007.01.08	WJ
--------	------	------------	----

● **ミリオン**

Flavor Of Life	宇多田ヒカル	2007.02.19	TO
----------------	--------	------------	----

● **トリプル・プラチナ**

ルーズ・ユアセルフ	エミネム	2003.05.21	UM
-----------	------	------------	----

● **ダブル・プラチナ**

CHE.R.RY	YUI	2007.03.07	SR
----------	-----	------------	----

「着うたフル(R)」

● **ダブル・プラチナ**

千の夜をこえて Flavor Of Life -Ballad Version-	Aqua Timez 宇多田ヒカル	2006.11.22 2007.02.28	ES TO
--	----------------------	--------------------------	----------

● **プラチナ**

CHE.R.RY	YUI	2007.03.08	SR
----------	-----	------------	----

● **ゴールド**

WINDING ROAD I'm Here Passion 蕾(つぼみ) ひと恋めぐり ガラナ secret base ~君がくれたもの~ 大阪LOVER RESISTANCE 素直なまま 茜空	絢香×コブクロ 伊藤由奈 宇多田ヒカル コブクロ 柴咲コウ スキマスイッチ ZONE DREAMS COME TRUE 中島美嘉 中島美嘉 レミオロメン	2007.04.04 2007.03.14 2005.12.14 2007.04.18 2007.03.28 2006.09.08 2005.04.13 2007.03.21 2006.01.11 2007.02.17 2007.03.20	WJ SR TO WJ UM BMG SR UM AI AI V
---	--	--	--

PC配信(シングル)

● **ゴールド**

三日月 Flavor Of Life -Ballad Version-	絢香 宇多田ヒカル	2006.09.27 2007.02.28	WJ TO
--	--------------	--------------------------	----------

※日付は配信開始日

認定基準一覧

音楽ソフト(邦・洋、アルバム・シングル・音楽ビデオ)、音楽配信(着うた(R)、着うたフル(R)、パソコンダウンロードシングル・アルバム)共通

名称	略号	基準
ゴールド	G	10万以上
プラチナ	P	25万以上
ダブル・プラチナ	PP	50万以上
トリプル・プラチナ	PPP	75万以上
ミリオン	M	100万以上
2ミリオン	2M	200万以上
3ミリオン	3M	300万以上

以降、100万毎に賞を設定

基準単位：音楽ソフト・枚、配信・DL(ダウンロード)
※着うた(R)のみダブル・プラチナ以上を顕彰

※AI:ソニー・ミュージックアソシエイテッドレコーズ/
AM:エイベックス・マーケティング/BG:ビーグラムレコーズ/
BM:パニーオンレコード/BMG:BMG JAPAN/
C:コロムビアミュージックエンタテインメント/CR:日本クラウン/DF:デフスターレコーズ/DRM:ドリーミュージック/EP:アップフロントワークス(ゼティマレーベル)/ES:EPICレコードジャパン/FK:ファイブスエンタテインメント/FL:フォーライフミュージックエンタテイメント/GN:ジュネオン エンタテインメント/GZ:ギザ/HSE:DOMINO RECORDING CO/HO/STESS/HY:東屋慶名建設/JA:ジェイ・ストーム/JE:ジャニーズ・エンタテインメント/JK:ユナイテッド・アジアエンターテイメント/K:キングレコード/KS:キューンレコード/MC:ミュージチャー・コミュニケーションズ/MH:ソニー・ミュージックダイレクト/ON:ビーヴィジョン/PAR:ブライエイド・レコーズ/PC:ポニーキャニオン/PK:ピッコロタウン/PZ:ピザ・オブ・デス・レコーズ/QQ:パームビーチ/RR:ロードランナー・ジャパン/SE:エスエムイーレコーズ/SI:ソニー・ミュージックジャパンインターナショナル/SM:ミュージックレイン/SN:SENHA & CO./SR:ソニー・ミュージックレコーズ/SV:アニプレックス/TE:テイチクエンタテインメント/TF:トイズファクトリー/TJC:徳間ジャパンコミュニケーションズ/TO:東芝EMI/UM:ユニバーサルミュージック/V:ビクターエンタテインメント/WJ:ワーナーミュージック・ジャパン/XL:アンリミテッドグループ/YR:アール・アンド・シー

協会からのお知らせ

本文中でもお知らせしましたが、携帯電話向けの違法な音楽配信対策のため「携帯音楽を守りたいキャンペーン」を開始しました。

キャンペーンの一環として、特設携帯サイト(<http://www.mamo-on.jp>)を開設しました。多数のアーティストから音楽ファンに向けて、メッセージを随時発信していきます。



 **携帯音楽を守りたい**
違法な音楽ファイルの利用はやめましょう

<http://www.mamo-on.jp>



THE RECORD No.572 2007年7月号

社団法人 日本レコード協会 機関誌

発行人 石坂 敬一
編集人 田辺 攻
発行日 2007年7月10日
発行 社団法人 日本レコード協会
〒107-0061 東京都港区北青山2-12-16 北青山吉川ビル11F
TEL. 03-6406-0510(代) FAX. 03-6406-0520(代)
URL: <http://www.riaj.or.jp/>

制作協力 株式会社エフピーアイ・コミュニケーションズ

編集後記

好きだったアーティストの方が他界されました。追悼の意もこめて、久しぶりに昔のCDを聞いてみると、その時代のさまざまな出来事を思い出し、懐かしくそして切なさも感じました。人それぞれの自分史は楽曲によって彩られ、忘れていたことを音楽が思い出させてくれることもあります。数々の名曲を生み出してくれた坂井泉水さんのご冥福を心よりお祈り致します。(T)

Respect
our MUSIC